

## 会員動向

第10回定時総会および創立10周年記念式典・祝宴会を開催

「10年後を見据えた技術開発と組織づくりを」

全国非開削普及協議会



全国非開削普及協議会(賛助会員、会長:岡本州雄スピーダーレンタル(株)代表取締役社長)は、8月23日メルパルク東京(東京・芝公園)において第10回定時総会および創立10周年記念式典・祝宴会を開催した。

総会では、冒頭に岡本会長からあいさつで創立10周年を迎えられたことについて「ひとえに会員の皆様のご理解とご努力の賜物」と会員各社に感謝の意を示した。また、下水道展'13東京(東京ビッグサイト、7月30日から8月2日、総来場者数88,645人)では同協議会ブースに1,200名の来場があり、さらにTVのニュース番組であるTBS「ニュース23」(8月2日放送23:30~24:15)で下水道展の取材ニュースにおいてゲリラ豪雨対策として同協議会ブースのEGSM工法が紹介されたこと。昨年度の施工実績が1,970基となり、前年比209%を記録したことなどを紹介した。さらに「10年後を見据え、協議会のさらなる発展を目指し、社会のニーズを捉え技術革新や各種ニーズに対応できる組織作りを進めたい」と締めくくった。



▲「10年後を見据えた技術開発と組織づくりを」とあいさつする岡本会長



▲「国内ではOnly1を海外ではNo1を目指す」と講演する石川専務理事

議事では、今年度の事業計画として非開削普及推進部会では、昨年に引き続きEGSM工法研究会と合同で、東日本大震災における早期復興復旧を据えた「環境にやさしい掘らない技術」として推進工法およびEGSM工法の普及促進活動を展開する方針。環境保全技術推進部会では、放射線対策先端システム技術協会と連携し、福島県内の放射線除染対策技術として実績を積み上げたものを継続し、本技術の確立とさらなる技術改革で被災地の方々に貢献できる技術として採用実績の積み上げの促進などが、決議された。

また、東日本大震災被災地復興支援策として、来年度からスタートするJ3(日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)の3部リーグにあたる組織)に参加を目指し、現在JFL(日本におけるアマチュアトップの全国リーグ)で活躍中の福島ユナイテッドFC(福島市)のサポートコーポレーションに同協議会が本年4月から加わったことも紹介された。

総会の講演会では、石川和秀(公社)日本推進技術協会専務理事が「推進工法 次なる進展への心構え~我が国の次なる推進技術を担う次世代への提言・進言・エールとして~」と



▲「100年経営の基本理念で会員各社の繁栄を」と講演する千野特任教授



▲「海外でも活躍してほしい」とエールを送る岡久下水道部長



▲「ますますの発展を」と乾杯の発声をする安中JSTT会長

題し約1時間にわたり講演した。講演内容は、眼前の進展舞台では①下水道の再構築②都市地下基盤の拡充③海外市場への進出を。国内市場では、自社の高度かつ独創的・特異的技術で他者との差別化を図りOnly1を目指せ。海外市場では、わが国の最高水準技術のもと「チーム日本」を組みNo1を目指せと、自身の経験とそれに基づいた持論を展開し、会員各社とその次の世代を目指す若者たちにエールを送った。

総会に引き続き創立10周年記念式典・祝宴会を開催した。

記念式典では、岡本会長と同協議会の初代会長である小池武則名誉会長のあいさつ後、協議会設立からの10年間のあゆみが事務局から紹介された。つづいて、石川専務理事が来賓代表であいさつに立ち、設立当初から応援することになったエピソードをユーモアを交え紹介し「20周年さらに30周年と同協議会が発展し、活動を続けてほしい」とエールを送った。

特別記念講演では、千野俊電気通信大学特任教授(元日刊工業新聞代表取締役)が「世界のパラダイム

シフト 日本はデフレ脱却、モノづくり再生を!一失われた20年を取り戻せ」というテーマで講演した。日本経済再生の処方箋として①金融緩和政策②公共工事や科学技術への財政出動③成長戦略にモノづくりのイノベーションとさらに、特に「環境・エネルギー」「健康・医療」「観光・旅行」など創造型内需の創出が必要と語り、「デジタル技術には落とし穴がある」とし、日本はアナログと機械、特に「メカトロニクスこそ日本の技術である」と持論を展開した。また100年経営の会について語り、創業100年以上の企業は世界で45,000社ありそのうち日本に25,000社あると紹介した。その特色として①明確な企業理念(屏風と商売は広げすぎると倒れる)②顧客・従業員・地域を重視(人を大事にする経営)③伝統の継承と革新(不易流行の精神)であるソードをユーモアを交え紹介し「20周年さらに30周年と同協議会が発展し、活動を続けてほしい」とエールを送った。

祝宴会では、来賓あいさつで国土交通省の岡久下水道部長が「雨水ますを雨水浸透ますにする技術はすばらしい」とEGSM工法の有用性を示し「みなさんが普及を目指し

ている日本の非開削技術は、ベトナムやインドネシアなど海外の国が非常に注目しており日本技術の進出を待っている。同協議会も日本国内に留まらず、是非、海外でも活躍してほしい」とあいさつした。

乾杯の発声では安中徳二(一社)日本非開削技術協会(JSTT)会長が「同協議会のますますの発展を」とあいさつし「乾杯」の発声で懇親会がスタートした。

懇親会ではアトラクションとして八王子舞踏会の「舞踏」や屋井裕幸(公社)雨水貯留浸透技術協会技術第二部長が作詞した水循環のテーマソング「雨の恵み~水循環(めぐり)賛歌~」(作詞:屋井裕幸・早坂悦子、補作詞・作曲:ふくしま黒枝、編曲:おがわ昭三)を歌手の黒川直美さんと黒川さん(人を大事にする経営)③伝統の継承と革新(不易流行の精神)であるソードをユーモアを交え紹介し「20周年さらに30周年と同協議会が発展し、活動を続けてほしい」とエールを送った。

この祝宴会には、会員の他に国土交通省をはじめ業界団体関連から十数名と報道関係からも10社以上が参加し盛大なものとなった。



▲ 創立10周年記念祝宴会の模様



● 月刊推進技術 会員動向ページに見開きで  
全国非開削普及協議会 第十回定時総会及び  
創立十周年記念式典・祝宴会の内容が掲載されました。